

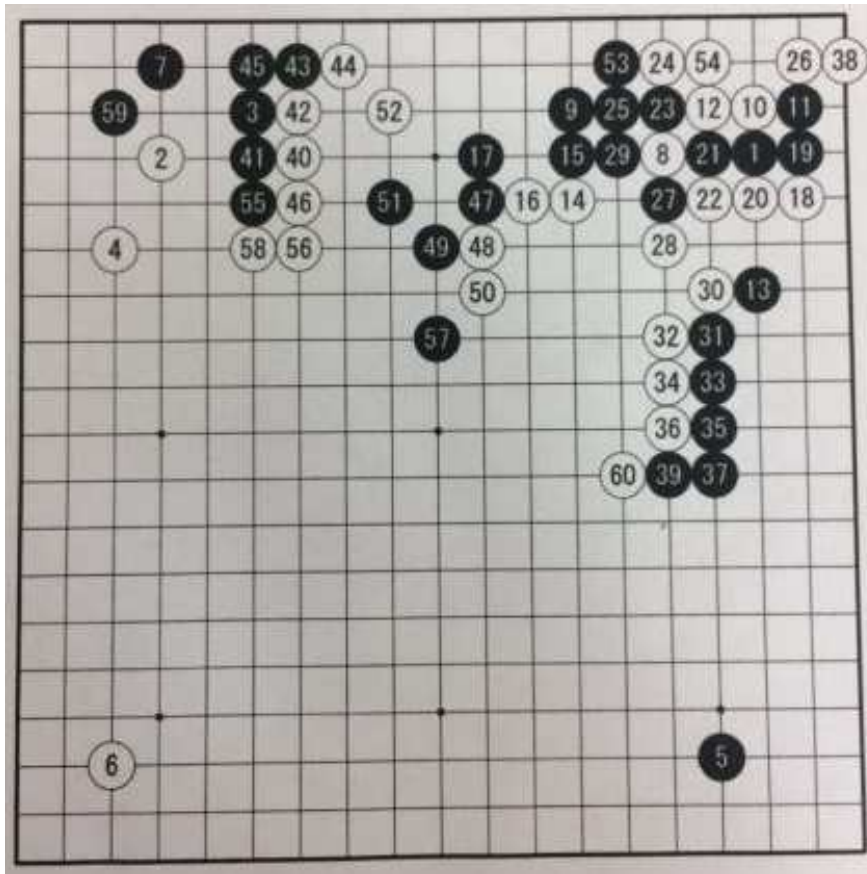
2017年 7月16日(日)於兵庫県宝塚市「宝塚ホテル」

(報告:佐田篤史三段)

黒番 上海チーム

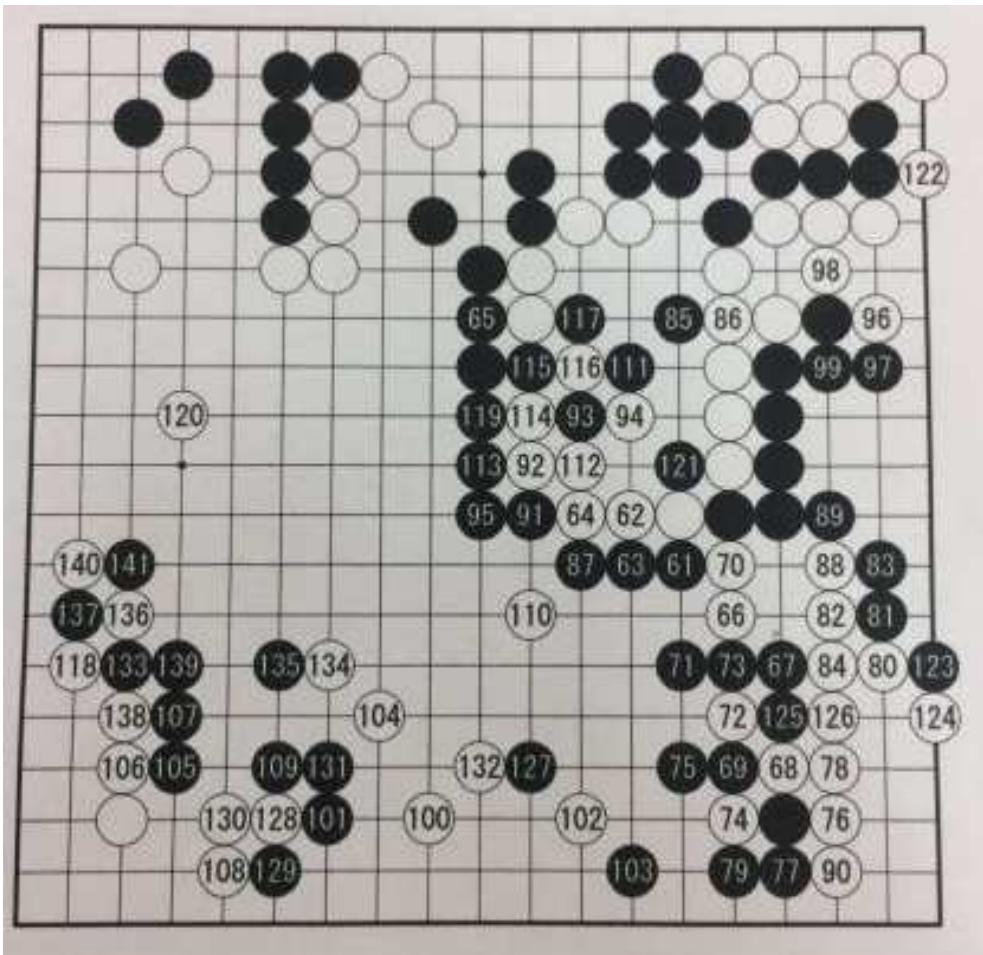
白番 大阪チーム

今回の都市対抗リレー碁で、初めてのホーム試合。私たち大阪チームは、序盤を梅先生と西健伸二段で優位に立ち上がり、ホームを活かして中盤と終盤に多くの棋士を投入する作戦で、上海チームに挑みました。



序盤黒 9 から、手数長い定石です、黒 39 までで一段落。互角の進行です。
白 36 手目の考慮中に一回目のタイムを使いました。タイムでは次にバトンを受ける
選手の意見も大切に検討を進めます。
白 42 手目から出場予定だった西二段の発案で、白 40 から仕掛けることを決断しま
した。
西二段は反省していましたが、実戦白 62 まで、互角に乗り切りました。

序盤から中盤の間(60 手目)に5分間の作戦タイムが設けられています。
中盤は、私が出場させていただきました。



白 66 のノゾキまでは、チームで想定した局面でした。
黒 67、白 68、黒 71 とお互いに反発し、難解な局面を迎えました。
黒 81 手目と打った場面で、大阪チームは 2 回目の作戦タイムをとりました。
白 82 以下の変化を詳しく検討し、実戦白 90 まで、白が地合でリードしました。
黒 79 で、90 とマゲるのはどうだったでしょうか。
白 110 ではどう打つのが最善か、今でもわかりません。
白 124 では 125 の場所に打って先手で生きることができました。
限られた時間で死活に自信が持てず、チャンスを逃してしまいました。
白下辺を 132 と治まって、白良しの形勢になりました。

中盤(141 手目)から終盤の間にも5分間の作戦タイムがあります。
形勢は良いのですが 100%勝ちになる図がなかなか見つかりません。
コウ争いの結論が出ないまま、終盤を迎えました。



142 手目からは江村棋弘アマ 7 段が担当しました。

黒 147 が厳しい。実戦白は簡明に処理したため、形勢が接近しました。

白 184 手目で交代のカードを使い、八幡直樹初段と交代します。

白 188 が敗着となりました。

白 188 では 195 と打って生きれば、白の勝てる形勢でした。

実際はこの後もヨセが続くので、時間のない中でなにが起こるかはわかりませんが、振り返ってみると、この局面が最も悔やまれます。

実戦は黒 193、黒 195 が好手。以下白はコウを粘り続けましたが、チャンスはありませんでした。